

橋端改良技術協会のコンセプト

日本経済を支える交通網の中、ライフラインとなる道路や鉄道に架かる橋梁は、建設後30年以上のものが全橋数の50%を超える現況であり、当時の設計耐用年数(50年)に達する橋梁も数多くなると予測されております。

現代の高速交通網の安全・快適を維持していくためには、地震等の災害から倒壊・崩落を防ぎ、更に高齢化を迎える橋梁への長寿命化対策の策定業務が重要視されております。

しかし予算制約のこともあり、構造物の要求性能を把握した上で、補強・補修を効率よく施工し費用の最小化を図る必要があります。

そこで、従来までに行われてきた橋梁全体を対象とした同一周期・同一工法と言った保全計画を見直した上で、劣化・損傷が激しい部位には、より高耐久性の技術・工法を活用し、橋梁全体の劣化バランスを整える事が最善策と考えます。

私達(橋端改良技術協会)は、このような事態を真摯に受止め、地域で活躍する経験豊富な人材により結成した団体であります。

長年培った知識と技術力は、地域社会に必ずや貢献できると信じ、橋梁メンテナンス分野の変革を推進してまいります。

橋端改良技術協会
会長 本吉 和康